

# カリキュラムマップ

人文科学研究科仏語学仏文学専攻 博士課程前期 R3年度以降入学生適用 (学位：修士(文学))

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

**【知識・理解】**

DP1：仏語学仏文学の専門的な知識を有している。

DP2：仏語学仏文学の理論を理解している。

**【技能】**

DP3：仏語学仏文学の知識や理論を展開させて論じることができる。

**【態度・志向性】**

DP4：研究倫理に関する基本的な規範意識を身につけている。

DP5：既成の枠組みにとらわれず、広い視野で研究に取り組む意欲を持っている。

DP6：先行研究を適確に把握しつつ独自の見解を積極的に打ち出そうとする姿勢を有する。

**\*3つのポリシー DPと**

特に強く関連：◎ 強く関連：○

授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解		技能	態度・志向性		
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
仏語学特殊講義Ⅰ a	2	1	前期	◎	○		◎		
仏語学特殊講義Ⅰ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
仏語学演習Ⅰ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎
仏語学特殊講義Ⅱ a	2	1	前期	◎	○		◎		
仏語学特殊講義Ⅱ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
仏語学演習Ⅱ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎
仏語学特殊講義Ⅲ a	2	1	前期	◎	○		◎		
仏語学特殊講義Ⅲ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
仏語学演習Ⅲ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎
仏語学特殊講義Ⅳ a	2	1	前期	◎	○		◎		
仏語学特殊講義Ⅳ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
仏語学演習Ⅳ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎
仏語学特別講義Ⅰ	2	1	集中前期	◎	◎	○	○	○	
仏語学特別講義Ⅱ	2	1	集中後期	◎	◎	○	○	○	
仏文学特殊講義Ⅰ a	2	1	前期	◎	○		◎		
仏文学特殊講義Ⅰ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
仏文学演習Ⅰ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎
仏文学特殊講義Ⅱ a	2	1	前期	◎	○		◎		
仏文学特殊講義Ⅱ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
仏文学演習Ⅱ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎
仏文学特殊講義Ⅲ a	2	1	前期	◎	○		◎		
仏文学特殊講義Ⅲ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
仏文学演習Ⅲ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎

仏文学特殊講義Ⅳ a	2	1	前期	◎	○		◎		
仏文学特殊講義Ⅳ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
仏文学演習Ⅳ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎
仏文学特殊講義Ⅴ a	2	1	前期	◎	○		◎		
仏文学特殊講義Ⅴ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
仏文学演習Ⅴ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎
仏文学特殊講義Ⅵ a	2	1	前期	◎	○		◎		
仏文学特殊講義Ⅵ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
仏文学演習Ⅵ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎
仏文学特別講義Ⅰ	2	1	集中前期	◎	◎	○	○	○	
仏文学特別講義Ⅱ	2	1	集中後期	◎	◎	○	○	○	
ヨーロッパ学特殊講義Ⅱ a	2	1	前期	◎	○		◎		
ヨーロッパ学特殊講義Ⅱ b	2	1	後期	○	◎	○	○	◎	
ヨーロッパ学演習Ⅱ	4又は8	1	2年通年	○	○	◎	○	○	◎

※博士課程前期の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。（ただし、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。）

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

・必要修得単位：32単位以上

必修科目：12単位（専修科目に定めた科目の演習科目8単位、特別講義科目4単位）

選択科目：20単位以上（その他の科目）

※一つの特講義及び演習を選択し、これを専修科目とする。

※専修科目の演習担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、研究一般等について指導を受ける。

※専修科目の演習は2年間8単位の履修を原則とするが、選択科目として1年間4単位の履修を認めることがある。

・修士の学位論文は専修科目について提出する。

特殊講義・特別講義科目・・・特に仏語学仏文学についての専門的知識・理論を習得するとともに、研究に取り組む際の基本的態度を身につける。

演習科目・・・研究指導を受けて修士論文の作成を行う。そのために、修得した知識・理論を展開する技能と、客観的かつ独創的な研究を目指す指向性を身につける。

1年次・・・仏語学仏文学研究における先行研究の把握と研究遂行に必要な基礎力の養成

・論文作成に関する指導を受けながら、文献調査などを通して研究の背景にある情報を収集し、研究テーマの絞込みを開始する。

・研究報告会及び中間発表会（1月）などにおいて、研究の進捗状況を報告する。指導教員や他の教員などから評価や助言・指導を受け、研究を進めていく上での問題点を明らかにするとともにその解決方法について検討する。

2年次・・・仏語学・仏文学に関して、専門的知識・理論に基づく論理的な説明をし、独創的な研究を遂行する能力の養成

- ・1年次の総括を踏まえ、必要に応じて研究計画の見直しを行う。
- ・継続して研究報告会などで研究成果を報告し、研究成果をまとめてゆくプロセスを学ぶ。一定レベル以上の研究成果が得られた場合には学会発表や論文投稿を行い、広く内外の評価を受ける。
- ・学位論文の論題を提出するとともに、学位論文を作成する。学位論文の作成に際しては、指導教員から内容及び構成に関する具体的な指導を受ける。
- ・学位論文を提出する。修士論文発表会（口頭試問）において、主査および副査からの質疑に答える。

## カリキュラムマップ

人文科学研究科仏語学仏文学専攻 博士課程後期 R3年度以降入学生適用 (学位：博士(文学))

### ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

#### 【知識・理解】

DP1：ヨーロッパの文化に対する深い教養をもとに、仏語仏文学のより専門的な知識を修得し活用することができる。

DP2：仏語学仏文学のより専門的な理論を理解し、フランス語で書かれた先行研究を正確に読解することができる。

#### 【技能】

DP3：仏語学仏文学のより専門的な知識や理論を展開させて論じることができる。

#### 【態度・志向性】

DP4：研究倫理に関する規範意識を身につけている。

DP5：先行研究を適確に把握しつつ独自の見解を練り上げる姿勢を有する。

DP6：既成の枠組みにとらわれず、多角的な視野で学際的な研究に取り組む意欲を持っている。

### \*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

研究指導科目	単位数	配当年次	期別	知識・理解		技能	態度・志向性		
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
仏語学特別研究Ⅰ	4又は12	1	3年通年	○	○	◎	○	◎	◎
仏語学特別研究Ⅱ	4又は12	1	3年通年	○	○	◎	○	◎	◎
仏語学特論Ⅰ	4	1	通年	◎	◎		◎	○	
仏語学特論Ⅱ	4	1	通年	◎	◎		◎	○	
仏文学特別研究Ⅰ	4又は12	1	3年通年	○	○	◎	○	◎	◎
仏文学特別研究Ⅱ	4又は12	1	3年通年	○	○	◎	○	◎	◎
仏文学特別研究Ⅲ	4又は12	1	3年通年	○	○	◎	○	◎	◎
仏文学特論Ⅰ	4	1	通年	◎	◎		◎	○	
仏文学特論Ⅱ	4	1	通年	◎	◎		◎	○	
仏文学特論Ⅲ	4	1	通年	◎	◎		◎	○	
仏文学特別研究Ⅳ	4又は12	1	3年通年	○	○	◎	○	◎	◎
仏文学特別研究Ⅴ	4又は12	1	3年通年	○	○	◎	○	◎	◎
仏文学特別研究Ⅵ	4又は12	1	3年通年	○	○	◎	○	◎	◎
仏文学特論Ⅳ	4	1	通年	◎	◎		◎	○	
仏文学特論Ⅴ	4	1	通年	◎	◎		◎	○	
仏文学特論Ⅵ	4	1	通年	◎	◎		◎	○	

※博士課程後期の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。（優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。）

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

・必要修得単位数：12単位以上

必修科目：12単位（専修科目に定めた特別研究科目）

※一つの特別研究科目を選定し、これを専修科目とする。

※専修科目の研究指導（特別研究）担当者を指導教員とし、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導に従うものとする。

※特別研究科目は3年間12単位の履修を原則とするが、専修科目としない場合は、1年間4単位の履修も認めることがある。

・博士の学位論文は専修科目について提出する。

特論科目・・・特に仏語学仏文学についてのより専門的知識・理論を習得するとともに、研究に取り組む際の基本的態度を身につける。

特別研究科目・・・研究指導を受けて博士論文の作成を行う。そのために、修得した知識・理論を展開する技能と、客観的かつ独創的な研究を目指す指向性を身につける。

1年次・・・仏語学仏文学における研究情報の収集・蓄積並びに独創的で高度な研究の遂行に必要な能力の養成

- ・指導教員の指導のもとに、研究の独創性や学術的意義を考慮して研究テーマの絞込みを開始する。文献調査等によって研究の背景にある情報を収集し、具体的な研究計画を立て、研究に着手する。
- ・指導教員との綿密な議論のもとに研究成果を蓄積していく。研究報告会などで研究の進捗状況を報告する。指導教員や他の教員から評価や助言・指導を受け、研究を進めていく上での問題点を明らかにするとともにその解決方法について検討する。まとまった成果が得られたところで、学会等で積極的に発表し、広く内外の評価を受ける。

2年次・・・仏語学仏文学に関する独創的研究を遂行する上で必要な専門的知識に基づいた論理的・客観的説明能力の養成

- ・1年次の研究経過を踏まえ、必要に応じて研究計画の見直しを行う。
- ・学位論文の提出に向け、継続して研究報告会などで研究の進捗状況を確認し、指導教員との綿密な議論を研究内容にフィードバックしていく。引き続き学会等で研究成果を積極的に発表し、広く内外の評価を受けるとともに、専門の学術誌に論文投稿を行い、査読審査を経験する。

3年次・・・仏語学仏文学に関して遂行し蓄積してきた研究の成果を公開する能力の養成

- ・研究を進める中で引き続き学会や専門の学術誌に研究成果を発表し、広く内外の評価を受ける。これまでの研究業績及び成果をまとめ学位論文を作成する。学位論文の作成に際しては、指導教員から内容及び構成に関する具体的な指導を受ける。
- ・指導教員の承認を経て、学位論文を提出し、学位審査請求を行う。
- ・学位論文発表会にて最終試験(口頭試問)を受ける。研究成果を総括し、主査および副査からの質疑に答える。